カトリック 福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　浦川 務
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

2027年7月16日　福岡教区は創立100周年を迎えます。

10月の意向

教皇の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】心の健康についての司牧

【日本の教会】宣教

2026年10月18日　世界宣教の日・献金

キリストの弟子である私たちにとって、キリストを伝えることである宣教は皆に与えられている使命です。

「キリストにおいて一つ、宣教における一致」
（2026年教皇メッセージより）

地域に出掛けていき教会のすばらしい姿を伝える、そのような宣教活動を心にとめたいものです。

○2026年「世界宣教の日」教皇メッセージ（全文）

○教皇庁宣教事業サイト（国外では「ミッシオ」（Missio）とも呼ばれています）

福岡カリタス・熊本サポートセンター

Facebook　Instagram　ポスター

2面に関連記事を掲載しています。

令和8年熊本地震発災

信仰の目で被災地を見る

（福岡カリタス責任者　寺浜 亮司 神父　吉塚・南粕屋教会）

地震で倒壊した記念碑

地震前の記念碑

2016年に発生した熊本地震から数えてちょうど10年後、再び震度7という大きな揺れが熊本を襲いました。この度の令和8年熊本地震です。被災地の皆さんは、「どうして…。また熊本に大地震が…」と、2度目の大きなショックを受けておられます。ようやく再建された建物や、前回の地震後にやっと片付けた部屋も、すべてがひっくり返されたかのような有り様です。

今回の震災支援のため、10年前と同じ場所に、当時を知るメンバーと、知らないメンバーが集まりました。大切なことは、2度としたくない怖い思いをされている方々へ、何を届けることができるかです。目まぐるしく変わる被災地の状況を前に、次の会議は、次の打ち合わせは、そして、次に必要な対応は―。そうしたことに追われ、無力さを痛感していたとき、ふと思い出したのが、地震発生直後から捧げられている祈りのことでした。

1995年1月、私は大学生として兵庫県に住んでいました。阪神・淡路大震災の発生直後、大学の恩師でもある神父様が、私たち数人の学生を集め、自転車で神戸へ向かいました。連絡の取れない学生や職員の家を訪問するためです。壁のようにそそり立つ、倒れた高速道路。神父様は私たち学生に、地震によって破壊された被災地を「しっかりと見ておきなさい」と言われました。

イエス様は福音書の中で、何度も私たちに「見なさい」と命じられています。この「見る」は目で見ることだけではなく、イエス様のように人々の苦しみを知ること。人々の痛みを自分の痛みとすることです。恩師の言葉が、今になってようやく分かりました。破壊された町の姿や、避難する多くの方々の姿を、私は決して忘れることができません。

私たちはカトリック教会です。イエス様の目、信仰の目で見るためには、十字を切り、祈りのうちにすべてを見つめることが必要です。

これが、カトリック教会の支援の始まりなのです。

ボランティア活動のため現地入りした司祭たち（左から）寺浜神父・ルカ神父・谷口神父・申神父・フォン神学生

時の話題

支援する・されるを越えて ―「共に歩む教会」へ―

今回の熊本地震に際し、福岡教区、熊本地区の方々、カリタスジャパン、ERST、神の愛の宣教者会のシスター方をはじめ、支援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。早朝から食事を作り届けてくださった方、交通事情の悪い中、物資を届けてくださった方、また、支援したい思いを持ちながら、教会の受け入れ体制が整うまで待ってくださった皆様にも感謝いたします。

7月28日の地震発生後、八代教会では、自宅も被災した有志の信徒数人が、停電や断水の中、支援物資の水や日用品の配布を行いました。そしてそのことをフェイスブックでは多言語で情報発信しました。また、外国籍の方々が物資の運搬を手伝い、障害のある信徒が温かいスープを届けるなど、それぞれ自分にできる形で支えてくださいました。

その一方で、被災した信徒だけで支援活動や情報収集を担うことには限界がありました。できていないことを責めるのではなく、善きサマリア人のように「何か私にできることはありませんか」と声を掛け合うことこそ、大切なのだと気づかされました。

そこで、災害時の役割分担や連絡体制を平時から決め、被災していない信徒などが電話で安否や被害状況を聞き取り、必要な支援につなぐ仕組みを「八代モデル」として提案します。

災害が起きてからではなく、平時から「（してもらうのではなく）どう支え合うか」を考える。

八代教会の経験が、福岡教区全体の「共に歩む教会」へつながることを願っています。

八代教会　下村淑子

2026カトリック平和旬間賛同企画
福岡教区主催「平和を祈る集い」

未来への警鐘を鳴らす南野氏と聞き入る参加者たち

8月11日、「平和の時　武力によらない平和を目指して」というテーマで、平和を祈る集いがカトリック大名町教会で開かれ、300人以上が参加した。

超大国が国際法を無視して軍事力により国際秩序を破壊する世界の現状への危機感と、国民の声に耳を傾けず数の力を頼りに権力者の思うままに国のあり方を変えようとする国内の動きへの不安感。これが平和を祈る集いの準備委員会で共有された思いである。私たち信徒が今起きていることを正しく理解し、責任ある選択を行えるようにとの願いが、今回のテーマには込められている。

午前の展示企画では、各小教区から届いた作品をはじめ、正義と平和・人権部門による日本国憲法の解説、北九州平和資料館から提供された戦争資料などが展示された。参加者からは「また同じことを繰り返そうとしていることに危機感を覚えた」「平和は能動的に求め守らなければならないと思った」などの声が寄せられた。

午後は、「教会と平和、憲法と平和―60年、80年、そして100年」と題して、カトリック信徒であり憲法学者でもある九州大学教授・南野森（しげる）氏の講演が行われた。南野氏は第2バチカン公会議の『現代世界憲章』を引きながら、教会は明確に戦争や軍拡競争に反対しており信徒も同様の姿勢であるべきだと指摘した。さらに日本国憲法改正案を詳細に解説し、改憲にブレーキをかけなければ危険な未来が招かれると強く訴えた。

同時開催の子ども対象企画では、青年スタッフがファシリテーターとなり、「平和ってなんだろう?」をテーマに意見を出し合った。「家族や友達と一緒にいたい」という子どもの声を聞き、一人の青年スタッフは「寄り添ってくれる存在こそが、子どもたちにとって何よりの安心なのだ」と語った。

「平和」を考え、思いを分かち合う子どもたち

最後に、ヨゼフ・アベイヤ司教主司式のもと平和祈願インターナショナルミサが捧げられた。説教で司教は「平和が可能であることを信じ、市民として責任を持って平和のために働きましょう」と力強く呼びかけ、参加者はそれぞれの決意を新たにしながら集いを締めくくった。

平和を祈る集い準備委員会
小出　豊（小倉教会）

みちくさ

私たちが住む日本は四季に彩られる自然豊かな国ですが、春季と秋季が極端に短くなっているようです。またこの夏は、酷暑日の記録が観測史上更新されました。全国的に降雨が少なく渇水対策が求められる一方で、記録的な豪雨のために被害が広範囲に及び、関連死を含めると十数人の人々が犠牲となられているようです。ご安息をお祈りいたします▼私たちの記憶は時間の経過とともにあやふやになり、鮮明さを失ってしまいます。私も10年前に震度7を2度経験しましたが、記憶に曖昧さが生まれています。当時、初めて経験する揺れと混乱に、我を忘れたように過ごした日々でしたが、具体的なことはあまり思い出せません。ただ、翌日からは多くの方々からの被災状況の問い合わせと励ましの電話が鳴りやみませんでした。また、教会関係者だけでなく、一般の方々からも支援物資が届けられ、必要とする人たちと分け合うことができ、人の心の温かさに明日を迎える勇気を頂いたことだけは、はっきり記憶しています▼この夏、再び、熊本県南部の八代地域を災害が襲いました。数年前は豪雨に見舞われ、今回は地震と、地域の皆様の苦しみは想像をはるかに超えるものです。余震が頻繁に起こり、その度に震え不安な日々をお過ごしでしょう。しかも酷暑の毎日です。疲労が蓄積し前向きな気持ちになれないのではないでしょうか▼かつて同じような経験をした者として、少しでも皆様の励ましになればと祈る日々。「瓦礫の一つでも片づけるお手伝いができれば」と、その機会を待っています。（U）

「教区創立100周年に向けて」は、今号は休載します。

熊本サポートセンター開設

支援物資を運ぶ青年たち

まず、熊本地震に関心を寄せ、支援に関わってくださっている皆様に、心より感謝申し上げます。

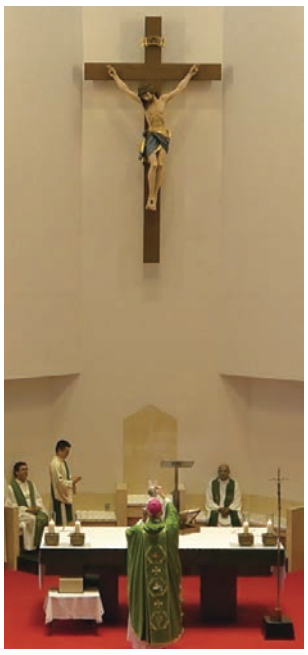
福岡カリタスでは、熊本地震に対応するため、教区本部に支援室を設置し、現場へのボランティアの派遣や支援物資の配布を行っています。また、9月には帯山教会内に熊本サポートセンターを設置しました。

サポートセンターでは、福岡教区内の青年会と一緒に、八代市災害ボランティアセンターや氷川町災害ボランティアセンターを通して、土曜日に計2回、ボランティア活動を行いました。

また、9月まで行っていた八代教会での日曜日の支援物資の配布に合わせ、皆さんからいただいた支援物資を八代教会に運んだり、必要なものを購入して届けたりする活動も行いました。

支援物資の配布は9月で終了しました。10月からは、9月の活動で得た経験を生かし、週に2～3回くらいで、ボランティアの募集に応じて活動できるよう、取り組んでいく予定です。

カテドラル大名町教会 大規模改修工事が完了


十字架に献香をする司教

4月に着工した大聖堂の大規模改修工事が、8月中旬に完了しました。

水銀灯の生産中止に伴う天井照明のLED化作業のため、天井まで届く足場を設置する必要が生じ、これを機に足場を必要とする作業も行うこととなり、約40年ぶりの大規模改修となりました。

主な工事は、天井照明のLED化、(以前までの水銀灯の)昇降装置の撤去、天井・壁などのひび割れや浮きの補修と再塗装、床カーペットの張り替え、鉄部のさび補修、ステンドグラスの洗浄、オルガンや消防設備の更新などです。また十字架上のキリスト像も、アベイヤ司教様がスペインから調達され、新しく設置されました。

工事期間中は駐車場の使用が大幅に制限され、信徒の皆様にはご不便をおかけしましたが、おかげさまで安全に工事を終えることができました。そして8月23日、アベイヤ司教様の公式司牧訪問でのミサの中で、大聖堂、十字架上のキリスト像、オルガンの祝福をいただきました。

聖堂内は以前より明るくなり、音響も大きく改善され、信徒が歌う聖歌も心なしか上手に聞こえます。カテドラルセンターでもある大名町教会が、福岡教区100周年を迎えるにふさわしい「神の家」として生まれ変わったことを、神に感謝し、信徒の皆さまとともに喜びたいと思います。

大名町教会　濵辺　敏樹

福岡教区創立100周年委員会

活動についての相談や問い合わせは、いつでも受け付けています。この教区報1面のお知らせで掲載しているInstagram、Facebook、または福岡カリタスのメールアドレスからご連絡ください。

まだまだ経験が浅く、至らない点も数多くありますが、できる限り皆さんのお力になれるよう、サポートして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

熊本サポートセンター責任者
申　東輝神父（帯山教会）

福岡教区創立100周年委員会の第11回会議が9月6日、カテドラル大名町教会で開催された。2027年の創立100周年に向け、記念ミサ、記念誌、講演会、記念グッズなどの準備状況を確認し、今後の取り組みについて話し合われた。

大きな議題となったのは、障がいのある方々への情報提供と記念ミサへの参加である。必要な情報が届いていないことから、各小教区で積極的に声を掛け、参加を呼び掛けることの大切さが確認された。また会場では、車から席まで安全に移動できる経路を確保し、音響や照明の条件にも配慮するとともに、介助者とともにゆとりを持って座れる席を設ける方向で準備が進められている。

創立100周年記念ミサは、2027年7月4日（日）午後1時からマリンメッセ福岡B館で行い、約4000人の参加を見込んでいる。

各小教区には参加予定者数や交通手段についてアンケートを実施し、回答期限は11月30日とする。駐車場に限りがあるため、障がいのある方を除き、できるだけ公共交通機関や貸切バスでの来場を呼び掛ける予定である。また、子どもたちが侍者として参加することや、外国語の聖歌を取り入れることなども検討されている。

記念誌は原稿の割り付けと校正が進められており、2027年3月末までの完了と確認を目指す。記念グッズでは、Tシャツとポロシャツの追加注文を受け付けることが決まった。また行事専門委員会から、若松英輔氏による100周年記念講演会での手話通訳の配置について、広報委員会からは、福岡教区の紹介動画作成についての説明などがなされた。

教区創立100周年を、世代や国籍、障がいの有無を超えて、皆で喜び、祈る時とするための準備が着実に進められている。

第2回　教区司祭評議会

7月21日午後、福岡司教館にて、本年度2回目の福岡教区司祭評議会が開催された。

まず教区経済問題について。現在、小教区や墓地の会計から資産を預けてもらい、その中で小教区への助成を行っている。これについてアベイヤ司教より「小教区での建築などで不足する資金を支援していきたい」との経済的な方向性が示された。

各地区からは、8月平和旬間の行事予定や青少年キャンプなどの計画が報告された。

各委員会からは、100周年に向けての広報や記念誌からの報告、青少年委員会からのWYD準備と今後の動き、福岡カリタスや宣教養成委員会からの活動報告がなされた。

100周年に向けて大切にすべきことについて、委員の間で分かち合いを行った。他小教区を知るための紹介ビデオの活用、教区歴史のパネル展示、先人たちへの霊的花束、青少年向けの企画、月1回100周年シャツやバッジを身に付けることによる意識づけなど、活発な分かち合いが行われた。

また、アベイヤ司教より「被造物を大切にするミサ」について説明があった。ミサの祈願や朗読を含む案内が各小教区に送られていること。また、日本カトリック司教協議会の組織改編で、外国人信徒に関する典礼やカテケージスを担当する司牧部門「多文化共生司牧部門」と、難民・人権・ビザなど社会問題を担当とする委員会「いのち・平和・人権委員会」が設置されたこと。福岡教区もその二つの組織に沿って委員会の活動を行っていくことが確認された。

最後に神学生養成部門より、福岡教区の2人の神学生がお世話になっている、ベトナムのビン教区訪問の報告がなされた。

久留米教会　青木悟神父

北九州地区宣教司牧評議会 いのち・平和・人権委員会主催 平和学習講演会 「壊れつつある世界の中で～日本は、そして私たちは今～」

松浦司教

7月25日、名古屋教区の松浦悟郎司教をお迎えして、いのち・平和・人権委員会主催の平和学習講演会が、小倉教会で開催された。北九州市内外から132人が参加し、長年平和活動に尽力されている司教が訴える、いまの世界と日本の危機について、真剣に耳を傾けた。

司教はまず“時のしるし”を読み取ることの重要性を話し、私たち信徒が自分の信仰のうちにとどまって、平和を実現するための具体的な選択や行動に踏み出せていないのではないかと問いかけられた。話題は、ガザでの紛争から日本の平和主義にまで及び、日本と世界が戦争という過ちを回避するために平和憲法が重要な役割を果たしていること、また憲法の前文がいかに福音的であるのかを語られた。

司教の講話の後、参加者が数人ずつのグループに分かれ、感想や平和への思いを分かち合った。「無関心でいると知らない間に憲法改正や戦争への道が開かれる危険性に気づかされた」「家族や周囲の人たちに思いを伝え、行動する大切さを実感した」という感想が聞かれた。

最後に司教は、教会が社会問題に関心を持つことが神の国への関心と同じであること、また信仰は個人的な救いだけでなく、この世界を神の国に変えていくことが目的であると述べられ、私たちの進むべき道を示された。

いのち・平和・人権委員会では、これからも様々な社会問題を取り扱い、「出向いていく教会」となる実践を、信徒の皆さんと積み重ねていきたい。

北九州地区いのち・平和・人権委員会

筑後地区宣教司牧評議会共催 「キリストのうちにともに苦しみ、ともに喜ぶ」

成井司教

8月2日、久留米教会において平和旬間の講話会を開催した。「キリストのうちにともに苦しみ、ともに喜ぶ」というテーマで、新潟教区の成井大介司教にミサ司式に続いてお話していただいた。講話には約100人の参加者があり、幅広い内容に皆が聞き入った。

司教は、キリスト教が教える「正しい」ということの最も根本的な理解は、神がこの宇宙の中の全てを極めてよいものとして造り、全ての命が他の存在に生かされて回る仕組みを造られたのだから、この宇宙の全てを極めて良いものとして大切にし、そのつながりの仕組みを守ることだと話された。また愛とは、無条件に分け隔てせずに人を大切にすることであり、正しい行いをするためには愛が必須であると話された。その中で、平和とは、神と他者と自然と自分自身が調和した良い関係にあることであると述べられた。さらに、色々な国を訪れ活動された経験をもとに、内戦や貧困で困難な生活を強いられている地域で生きている人々の生活や問題、その支援のために愛をもって活動する人々の様子も紹介された。日本国内の問題についても触れ、貧困率が上がった事や、私たちが集団的自衛権や長射程ミサイルの配備の中で生きていて、他国を脅威に感じ、日本と外国の間に壁をつくっていると問題提起された。

平和とは、神様のもとにあって自分自身と他者、自然、環境との繋がりの中でつくられ成り立つものである事を強く認識し、皆で共有する事ができた。一人ひとりが身近なところから、行動し、祈り、そこから平和が広がっていくことを願いたい。

久留米教会　阿蘇品（あそしな）　智子

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか
URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

福岡地区　「〝魔法〟にかかったような『平和の時間』」

「平和の願い」を木に貼る子どもたち

2026年7月25～26日、近隣小教区にも呼びかけて定員50人を満たし、光丘教会でのサマーキャンプが開催されました。今年のテーマは「平和を実現する人々は幸いである～私にできること 私たちにできること～」で、自ら平和を創り出す大切さに沿った学びや祈りが行われました。子どもたちが書いた「平和の願い」の紙は「平和の木」に貼られ、ミサで奉納されました。

水遊びや花火などの楽しい時間を通して、子どもから大人まで世代を超えて心が一つになる「平和の時間」となりました。また、過密日程にもかかわらず準備や片付けが完璧で、移行時間がほぼゼロという「奇跡」がありました。これは各教会のリーダーや保護者らが常に「自分にできること」を意識して動いた完璧なチームプレーの成果であり、子どもたちにとって平和の生きた教材となりました。この大人と子どもの相互の恵みこそが、未来へ開かれた教会を実現する「魔法」です。

光丘教会　杣（そま）叔眉（きよみ）

北九州地区　「サマーデイキャンプ」

手作りのうちわを手に笑顔の子どもたち

夏休みが始まった7月19日、お昼過ぎから北九州地区の教会の小学生・中高生、スタッフなど約80人が集まり、新田原教会でデイキャンプを開催した。

サレジオ会の谷口亮平神父様のお話の後、うちわ作りや体を使ったゲームを楽しみながら親睦を深め、その後の水遊びの場では小教区を超えた仲が生まれていた。BBQを経て解散となったが、名残惜しむ姿も見られ、次回の開催を楽しみにしている様子だった。

レクリエーションの企画やBBQの準備など関わってくれたスタッフの方々に感謝すると共に、次回は復活祭前に子どもたちの黙想会を企画していきたいと考えている。

小倉教会　岡崎 真一

佐賀地区　「西坂の聖人を訪ねて」

西坂公園内の二十六聖人記念碑の前で

佐賀地区宣教司牧評議会主催の青少年デイキャンプが8月22日に開催され、長崎県にある日本二十六聖人記念館、原爆資料館、浦上天主堂を訪問した。

西坂の路地を額に汗して上ると、二十六聖人記念館に隣接する聖フィリッポ教会で、館長のレンゾ・デ・ルカ神父様が笑顔で出迎えて下さった。神父様に26聖人をはじめ、長崎の殉教者のお話をしていただき、「彼らは苦しみを超える大きな恵みに力づけられて命を捧げた。私たちも、いただいた信仰をどう受け継ぎ捧げていくのか」という問いかけがあった。

浦上天主堂では中野健一郎神父様が、浦上での弾圧、原爆による聖堂の崩壊と再建の歴史を穏やかに語って下さった。被爆のマリア像が安置されている小聖堂で、平和のために祈りを捧げた。

道中のバスではゲームを行い、お昼には皆でおいしい中華料理をいただいて親睦を深めた。子どもたちはデイキャンプを通して、信仰の先達の生きざまを学び、9月に行われる嬉野不動山殉教祈念祭に向けての良い準備ともなった。

佐賀教会　牧山まり子

夏の思い出

全文や写真は下記QRコードからご覧いただけます。

福岡地区

【糸島教会】

そうめん流しを楽しむ子どもたち

8月23日、糸島教会・茶山教会・浄水通教会合同の「夏の子どもの集い」が行われた。子どものためのミサの後、子ども19人、コレジオ生2人、保護者等の大人50人以上、総勢70人以上が参加して、手作りのゲームやそうめん流しなどを楽しんだ。外国籍信徒や信徒ではない母子の参加もあり、小教区の垣根だけでなく、国籍や信徒であるかどうかの垣根を越えた「開かれた」催しとなった。子どもたちから、「楽しかった」「おいしかった」「またしたい」と感想が寄せられた。

浦越義人

【笹丘教会】

8月29日、毎年恒例の「聖アウグスチノ祭」を開催した。今年は、昨年5月に主任司祭となられたリアム・オドヘティ神父様の司祭叙階50周年のお祝いも兼ね、100人程が参加し盛大に開催された。

始まりは「希望の巡礼者」の歌で、リアム神父様を出迎えた。テーブルには料理やケーキが並び、バーベキューパーティーが始まった。この後お祝い会に限っては酒類も準備。そして、子どもたちが楽しめるかき氷も提供された。最後にリアム神父様が素晴らしい詩吟を披露してくださり、盛会のうちにお開きとなった。

西山淳子

筑後地区

詩吟「早発白帝城」を披露するリアム神父

【今村・本郷教会】

7月21日、今村教会と本郷教会合同の巡礼に参加しました。本河内教会（長崎市）に行き、マキシミリアノ・マリア・コルベ神父について勉強しました。

コルベ神父は1894年1月8日ポーランドで誕生し、フランシスコ修道会の神学校に入り、24歳で司祭になりました。1930年に来日して、『聖母の騎士』誌を大浦で発行し、本河内に修道院を開設して出版事業を継続しながら後進の育成に尽力しました。1936年、会議の為にポーランドへ帰国すると第2次世界大戦が勃発し、ポーランドはナチス・ドイツに支配され、日本への再渡航が不可能になりました。コルベ神父が暮らすニエポカラヌフ修道院はユダヤ人等の難民を保護し援助する庇護施設となっていたため、その活動が警戒され、アウシュビッツの収容所に送られました。そこで1941年、1人の男性の身代わりになることを自ら申し出て、8月14日に毒薬の注射で命を絶たれ、47歳でその生涯を終えました。

コルベ記念館で学ぶ子どもたち

私は、身代わりになるという勇気や、餓死室の中で囚人を励まし祈りをささげた優しさが人としてすごいと思いました。そんな素晴らしい神父様が過ごされていた長崎の地を同じ教会の仲間たちと巡礼ができ、とても良い経験になりました。

今村教会　原野 夕希奈

北九州地区

【小倉教会】

9月から始まる教会学校の2学期を前に、今年も「夏まつり」を開催しました。そうめん流し、水鉄砲、水風船、スイカ割りなど、暑さに負けず子どもたちは大はしゃぎ。スイカ割りでは、「もっと右！」「まっすぐ！」と応援する声が響き、割れた瞬間には大歓声が上がりました。多くの方々のご協力により、楽しい夏の思い出をつくることができました。習い事などで日曜日も忙しい子どもたちだけど教会学校にも来てね！

北川卓也

【湯川教会】

共同体が一つに感じられる楽しい事をしたいねと考え、浮かんだのが老若男女誰でもできるビンゴゲーム。

8月15日は聖母マリアの被昇天のミサ。終戦の日でもある。被爆者を追悼し、マリア様に取り次ぎの祈りを捧げたあと、涼しい集会所へ。ゲームを開始すれば参加者たちの「リーチ！」「ビンゴ！」の熱い声。みなさん楽しんでくれました。

コロナ禍以前は被昇天の祭日に一番近い土曜日に、隣の聖母園（保育園）と一緒に「納涼祭」を行っていましたが、コロナ禍以降、共同イベントは途絶えました。今後は聖母園との〝楽しいこと〟をぜひ再開したいと希望しています。

八郷真紀子

【戸畑教会】

約220年続く戸畑祇園大山笠の競演会が例年7月の第4土曜日に行われます。提灯大山笠（ユネスコ無形文化遺産に登録済）が練り歩くさまは大変勇壮です。

戸畑教会は会場に大変近く、大勢の見物人の通り道になっているため、約50年前からチャリティーを目的として、教会駐車場で夏祭りをはじめました。戸畑天使園と共催です。

戸畑祇園大山笠

片岡秀司

熊本地区

平和のメッセージを貼ったパネル

【手取教会】

令和8年熊本地震の影響で手取教会（熊本市中央区）は聖堂の安全チェックが済むまで信徒会館ホールでミサを行っている。

8月8日に予定していた「平和の集い」は、聖堂が使えないため、聖堂内コンサート（聖歌隊合唱、フルート演奏、バイオリン演奏、ゴスペル、パイプオルガン演奏）を中止し、平和のメッセージを貼り付けた「大型パネル」と「平和」の電照文字だけを信徒会館エントランスホールに展示した。

また、苦渋の決断だが、子どもたちが楽しみにしていた熊本地区宣教司牧評議会主催の天草キャンプは中止にした。8月9日は、ミサの中で立田山カトリック納骨堂（熊本県中央区黒髪）に眠る方々へ祈りを捧げ、午後にはベトナム共同体ミサがあり、コムスタカ（外国人と共に生きる会）寄贈支援品を必要な方に持ち帰ってもらった。

小野豊和

【菊池教会】

8月9日、菊池山鹿教会合同で平和の集いが開かれた。

ベトナム人信徒7人を含む約30人が参加し、家族、社会、国際、教会の平和をテーマに4グループに分かれて分かち合いを行い、それぞれの代表者が内容を発表した。↘

今年は7月25日、午前中からカレーなどの仕込み、午後からはテント張り・電飾等の設置、そして午後5時に鄭神父様の鐘の合図でお祭りの始まりです。かき氷や手作り餃子やカレーなどの飲食物、ヨーヨー釣りやくじびきなどの遊べるコーナー等、多数の夜店を準備しました。天使園の先生方・園児父兄、信徒等総勢50人以上の協力がありました。歓声に誘われたお客さんや園児、父兄、卒園児、信徒など大変盛況でした。

今年の収益金は、福岡カリタスを通じて、全額を熊本地震支援のために寄付することになりました。早い復興を祈っています。

↙その他、教会学校の子どもによる「神様ののぞむ平和」の発表、沖縄全戦没者追悼式で読まれた詩の視聴、山鹿教会所属の戦争体験者から平和への願いを聞くなど、平和への思いを深める集いとなった。

岩根のぞみ

BOOK 読みは専科

☆回勅　人間の偉大さ
AIの時代における人格の擁護
教皇レオ十四世（著）

9世紀末のレオ十三世の回勅『レールム・ノヴァールム』を嚆矢とする教会の社会教説の歴史と原理を概観し、人工知能に代表される高度なテクノロジーが生活の領域にまで深くかかわっている現代において、それが示す指針をどう適応させるかを考察したうえで、人間が真に人間らしくあるにはどのような道をたどるべきかを説く。

カトリック中央協議会
10月1日発行
税込価格1540円

カトリックの教会葬
共に祈り・共に送る
株式会社
みこころ舎
旧カトリック神学院 旧修道院 内
問合せ
050-3032-1333

「QRコード」という名称はデンソーウェーブの登録商標です。

年間目標　「出向いて行く教会」となる

福岡教区の殉教者を偲んで

ディエゴ加賀山隼人殉教記念ミサ
［日　時］10月11日（日）15時～
［場　所］カトリック小倉教会
［ミ　サ］主司式　ヨゼフ･アベイヤ司教（福岡教区長）
［問合せ先］☎093･921･0093（小倉教会）

八代殉教ミサ
［日　時］11月15日（日）11時～
［場　所］カトリック八代教会
［ミ　サ］主司式 フェルッチョ.B 神父
（八代・水俣教会主任）
［問合せ先］☎0965･32･4065（八代教会）

うすねぎり殉教ミサ
［日　時］11月23日（月・祝）11時～
［場　所］熊本県阿蘇郡南小国町満願寺（臼内切）
［ミ　サ］主司式 フェルッチョ.B 神父
（八代・水俣教会主任）
［問合せ先］☎0965･32･4065（八代教会）

教区宣教・養成委員会主催
「黙想と祈りの集い」テゼの歌と共に

ろうそくを見つめ、短い歌を繰り返し、静かに黙想する時間を過ごしませんか？
［日　時］10月9日（金）19時半～
［場　所］カテドラル大名町教会小聖堂
［問合せ先］☎080･3227･8295（杣）

教区いのち・平和・人権委員会主催講演会
蟻の街に生きた尊者
「北原怜子の信仰と生き方
―極貧に身を委ね、愛に燃え立って―」

［日　時］10月24日（土）14時～（開場13時半）
［場　所］カテドラル大名町教会 講堂
［講　師］澤田愛子氏（西新教会）
［問合せ先］☎090・6775・4268（青木）
070・6594・5716（増井）

典礼聖歌研修会

［日　時］10月25日（日）14時～16時
［場　所］カトリック笹丘教会
［内　容］「待降節・降誕節」
［講　師］深堀純氏（大名町教会）
［参加費］感謝献金
［問合せ先］☎092･541･3730（松山）
※典礼聖歌集をご持参ください。

マリアの宣教者フランシスコ修道会
聖フランシスコ帰天800年記念
「聖フランシスコとの出会いと信仰の歩み」

［ゲストスピーカー］洋画家：森田貴博氏・版画家：平井栄美氏（Galleria ASSISI 画廊主宰）
［日　時］11月21日（土）14時～17時
［場　所］マリアの宣教者フランシスコ修道会（FMM）熊本修道院（熊本市西区島崎6-1-27）
［内　容］特別トーク・聖体礼拝・茶話会
［問合せ先］inorifmm@outlook.jp Sr. 内田（マリアの宣教者フランシスコ修道会）
※参加無料　どなたでもご参加ください。

― 召命を共に祈る会 ―

福岡地区　10月20日（火）13時30分～ 大名町教会
ミサ司式：O. ベルナルド神父（古賀教会）
〔問合せ先〕☎090･6422･2257（山口）

北九州地区　10月10日（土）14時～ 小倉教会
ミサ司式：ジョン･ウォンチョル神父（戸畑･若松教会）
〔問合せ先〕☎0949･24･9905（藤井）

熊本地区　10月1日（木）9時～ 手取教会
ミサ司式：牧山美好神父（手取教会主任）
F. マッケイ神父（手取教会協力）
〔問合せ先〕☎096･352･3030（手取教会）

― 各種団体の定例会・その他催し ―

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報10月号」、または右記QRコードからご確認ください。

福岡教区広報室アドレス
https://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板　会合と催し　10月のこよみ

福岡教区創立100周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう
2027年7月16日 教区創立記念日まで あと 288日
2026年7月～2027年7月
テーマ：出向いて行く教会となる

教区報 紙面投稿募集！
文章は400字程度を目安に。短い一言メッセージや、写真・イラスト、ちょっとした思い出話でも大歓迎です。
テーマ：1．100周年の記念にやりたいこと
2．100年後の福岡教区を想像する
3．未来の福岡教区へ贈る言葉
応募先 E-mail:cdf-kouhou@nifty.com
（郵送）福岡市中央区浄水通6-28司教館　広報部

真命山諸宗教対話センター　- 祈りの集い -

年間テーマ：祈りの人々と出会う「主は御自分の親しい人に御旨を示される」（詩編25・14）
日　　時：10月8日（木）10時～15時
内　　容：聖フランシスコ：すべての造られたものと祈る人「いと高き、全能の、善い主よ」
次　　回：11月12日（木）10時～15時
内　　容：ザカリアとエリサベト：神の訪れ気づく 人々「主はほめたたえられよ」
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail　shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

10月のこよみ

1日（木）　司教臨時総会（9月30日～東京・中央協議会）
聖テレジア（幼きイエスの）おとめ教会博士
4日（日）　年間第27主日
二日市教会献堂75周年感謝記念ミサ
6日（火）　†イ・スンヒョン神父（2018年　水巻教会）
7日（水）　ロザリオの聖母マリア
11日（日）　年間第28主日　加賀山隼人殉教記念ミサ（小倉）
12日（月）　今村教会の歴史と建築シンポジウム（大名町教会）
14日（水）　長崎教会管区司教・司教総代理・事務局長協議会（～15日　長崎）
17日（土）　†ドミニコ田川清美（2021年　福岡教区司祭）
18日（日）　年間第29主日　世界宣教の日（献金）
高宮教会献堂75周年記念ミサ
20日（火）　第3回教区司祭評議会（大名町）
23日（金）　駐日バチカン大使来福（～25日）
24日（土）　†洗礼者ヨハネ深堀勝人（2023年　福岡教区司祭）
25日（日）　年間第30主日　西新教会堅信式
ベトナム語共同体のミサ（大名町）
26日（月）　教区青少年委員会（大名町）
29日（木）　福岡教区幼児教育連盟会議（大名町）

【11月】
1日（日）　諸聖人（年間第31主日）　光丘教会司牧訪問
2日（月）　死者の日

■ゴシックは司教日程

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記QRコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊き出し
第2・4金曜日
調理14時から　夜回り21時～
○路上からアパートに入居した方を訪問　第2土曜日14時
〔問合せ先〕☎092･431･1419ジョンソン・デソーザ神父

■大濠カトリック会館・宣教養成センター
○ミーアサロン大濠
第1・第3水曜日10時～
〔問合せ先〕☎092･753･6765角田
○みことばのお弁当
2026年度「幸いの宣言」
第4木曜日10時～
〔問合せ先〕☎092･753･6765大濠カトリック会館

訃報

アナ・マリア 修道女（天使の聖母宣教修道女会）

9月8日、ルワンダで帰天。享年70。福岡教区では、湯川教会での司牧や外国人信徒の司牧などに奉仕されました。

編集後記

4年前から阿蘇・西原村の棚田オーナー制度に参加していて、9月は落花生を収穫しました。昼食のお弁当目当てについて来る高齢の母も、落花生をちぎる大仕事には加わるので助かります。しかし今年は雨の影響で、収穫量は例年の3分の1以下。形は立派でも、中身はスカスカというものもたくさんありました。
気候変動によって日本や世界で起きる災害を耳にするたび、心が痛みます。祈りや行動は「すべてのいのちを守るための月間」だけでなく、常に心掛けたいと思います。（W）

Cầu mong anh được an nghỉ vĩnh hằng
松本ミハン（Viet Nam 大名町教会）

Ngày 28 tháng 7 năm 2026, một trận động đất đã xảy ra tại tỉnh Kumamoto. Trong trận động đất này, anh TRAN VAN SON (Trần Văn Sơn), một thực tập sinh người Việt Nam, cũng đã trở thành nạn nhân.
Anh Sơn mới sang Nhật vào tháng 1 năm nay, chưa đầy một năm. Vào ngày xảy ra tai nạn, trong lúc đang làm việc anh Sơn đã bị mắc kẹt dưới một chiếc cần cẩu bị đổ xuống do động đất. Anh đã đột ngột ra đi, để lại người vợ trẻ và đứa con mới 7 tháng tuổi ở quê nhà. Theo lời anh trai của anh Sơn, Sơn là người em út trong gia đình, hiền lành và ít nói. Khi được hỏi về mục đích sang Nhật, Sơn từng chia sẻ: “Vì tôi chưa tổ chức đám cưới, nên tôi muốn sang Nhật làm việc để kiếm tiền lo chi phí cho đám cưới.”
Vào đêm anh Sơn qua đời, người vợ kể rằng, dù em bé mới 7 tháng tuổi, chắc chắn vẫn chưa thể hiểu được chuyện gì đã xảy ra, nhưng khi được cầm di ảnh của cha, em bé lại không hiểu vì sao mà cứ chăm chú nhìn mãi vào bức ảnh ấy.

全文と日本語訳はこちらから →

2026年7月28日に熊本県で地震が発生しました。この地震でベトナム人実習生のTRAN VAN SONさん（チャン・バン・ソン）も犠牲になりました。

ソンさんは今年1月に来日したばかりでまだ1年も経っていません。当日、通勤中に地震で落下したクレーンの下敷きとなったソンさんは、母国に若い妻と7ヵ月の子どもを残して突然、帰らぬ人となりました。

ソンさんのお兄さんによると、ソンさんが兄弟姉妹の中で一番下の弟で優しくておとなしい人だったそうです。また、ソンさんに来日の目的を尋ねると、「結婚式を挙げていないから、日本で働いて結婚費用を稼ぎたい」と語ったそうです。

ソンさんが亡くなられた日の夜、生後7ヵ月でまだ何も分からないはずの赤ちゃんに、お父さんの遺影を見せると、「その写真をじっと見つめ続けていました」とソンさんの奥さんが語りました。
（…continued）

チャン・バン・ソンさんの葬儀の様子
（手取教会 信徒会館）

ド･ロさま　ながさきうどん
Nagasaki Spaghetti 長崎スパゲッチー Since 1883
株式会社サンフリード ド･ロさま麺工場
長崎市西出津町2528-1
TEL(0959)23-0610
FAX(0959)23-0611
右記URLからご注文できます

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談
セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00～12:00　13:00～16:00